



2022年4月25日

## 商品価格高騰のブラジル経済への影響

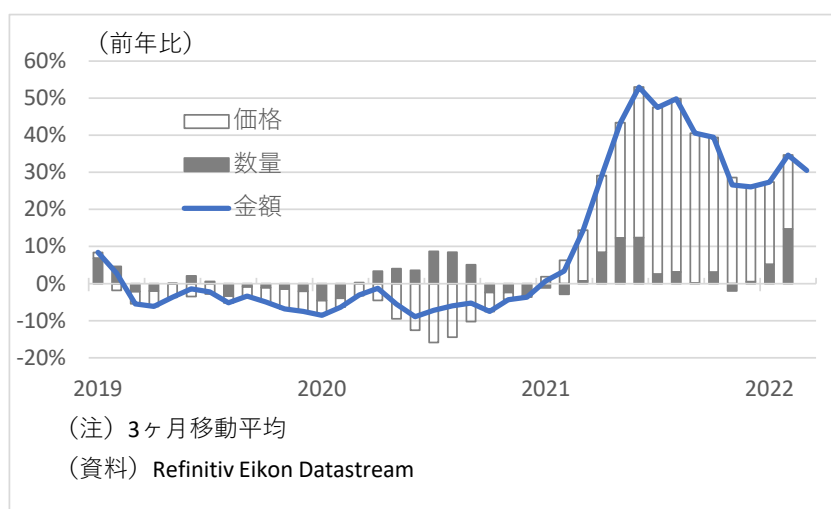
公益財団法人 国際通貨研究所  
経済調査部上席研究員 森川 央

### 商品価格高騰の恩恵を受け貿易黒字が増加

ブラジルの輸出が好調である。2021年の輸出は、前年比34.2%増となっていた。特に2021年4-6月、7-9月は、それぞれ前年同期比41.8%、45.9%と5割増に迫る伸びになっていた。10-12月は30.7%増にやや鈍化したものの2022年1-3月も30.5%増と10-12月並みの高い伸びを維持している。

輸出好調の主因は商品市況の高騰である。2021年、農産物や鉱物などの一次産品輸出は数量ベースではほとんど伸びなかった（前年比-0.3%）が、価格は36.5%上昇し、金額は36.2%増となった。一次産品はブラジルの輸出全体の58.8%（2021年）を占めているので、一次産品だけで輸出全体を21.6%ポイント押し上げたのである<sup>1</sup>。

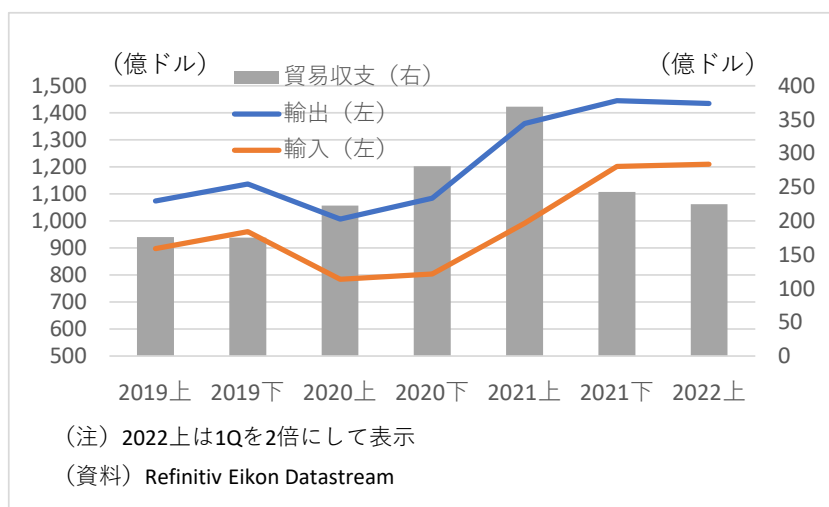
図1 ブラジルの輸出



<sup>1</sup> 同年、製品輸出も増加していたが、全体への寄与度は8.4%ポイントだった。

2021年は輸出が増加する一方、輸入も拡大していた。輸入は2020年に前年比-14.2%と減少したが、2021年は同40.4%と急増した。貿易収支は2020年の504億ドルから2021年には612億ドルへと21.4%増加した<sup>2</sup>。

図2 ブラジルの輸出入と貿易収支



しかし、2021年を前後半に分けると、下期は輸出の伸びが6.2%に鈍化する一方で輸入は21.2%増加しており、貿易収支は369億ドルから243億ドルへ34.1%減となっていた。もっとも減少したとはいえ貿易収支は年率換算で500億ドルに迫り、2022年1-3月もほぼ横ばいとなっている。

### 交易条件の改善で潤うも、足元では悪化方向

輸入価格を上回る輸出価格の上昇は、交易条件の改善をもたらす。2021年は、交易条件の改善がブラジルに多額の交易利得をもたらし、実質GDP成長率以上の好況をもたらしていたはずである<sup>3</sup>。

しかし、このブラジルにとっての追い風は2021年前半で止まったようである。交易条件指数は2021年6月にピークを迎え(122.7)、最近は103.1まで低下してきている(2月)。

交易条件指数は(輸出価格指数) ÷ (輸入価格指数)で算出される。分子である輸出価格指数の上昇が一旦低下してきたのに対し、分母の輸入物価指数は一貫して上昇してきているからである。商品市況の上昇により輸出価格の上昇が先行していたが、投入価格や輸送費の上昇によりブラジルが頼る工業製品への価格転嫁が進行し、交易条件は悪化し始めたのである。

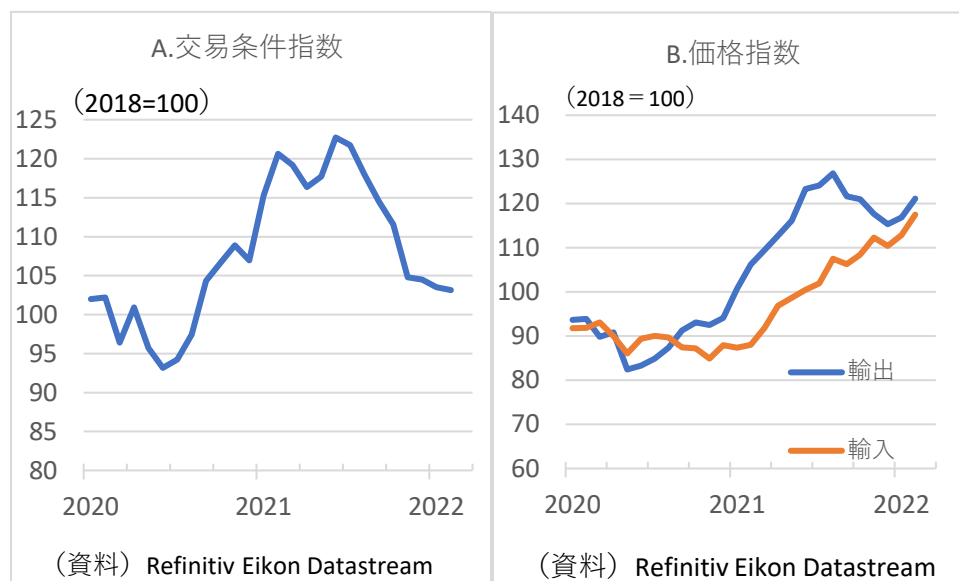
3月以降は、ウクライナ戦争の影響で再び商品価格が上昇しており、輸出価格も上昇すると思われる。しかし、時間差をもって輸入価格もいずれ上昇してくると思われる。消費者物価はすでに前年比11.3%(3月)に達している。輸入価格の上昇は、さらに国

<sup>2</sup> 2019年の貿易収支は352億ドルだった。

<sup>3</sup> 実質国民所得(GNI) = 実質GDP + 交易利得と定義される。ブラジルの2021年の実質GNIはまだ発表されていない。

内のインフレに拍車をかけることになる。

図 3 交易条件



結局、輸出数量が伸びず価格のみが上昇している状況では、景気拡大効果が限られているうえ、輸入物価が後を追って上昇してくれば、交易利得もたちまち失われ、インフレだけが残る状況に陥る。持続的な景気拡大には世界経済の拡大による輸出数量の増加が望まれるが、ウクライナ戦争の影響で世界の予想成長率は引き下げられているほか、商品市況の上昇自体が行き過ぎればいずれが輸出数量の鈍化に繋がってくる面もある。ブラジルは資源国であるが、商品価格高を手放しで歓迎できないのである。

以上

Copyright 2022 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)  
All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.  
Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan  
Telephone: 81-3-3510-0882  
〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階  
電話：03-3510-0882 (代)  
e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)  
URL: <https://www.iima.or.jp>

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。